

経営比較分析表（令和元年度決算）

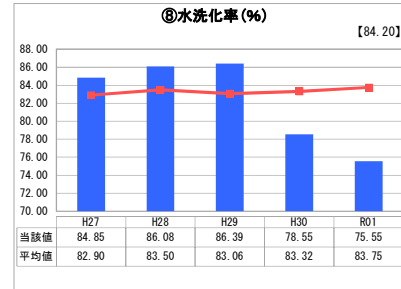
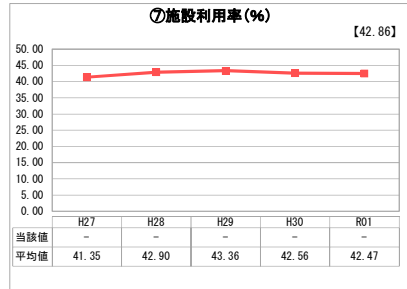
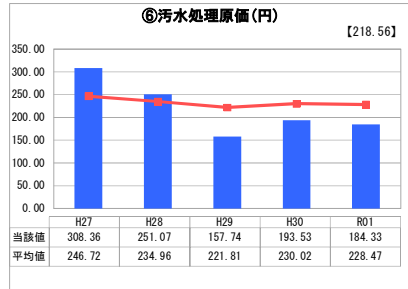
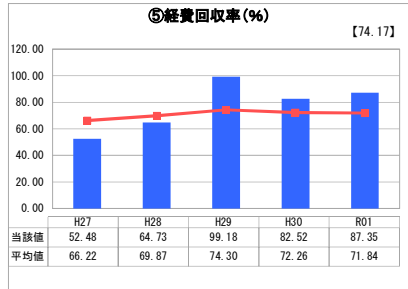
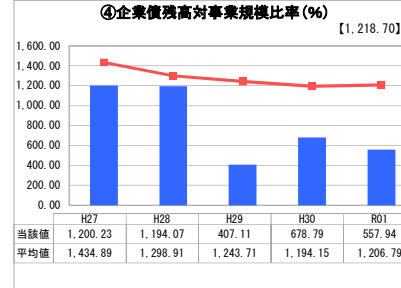
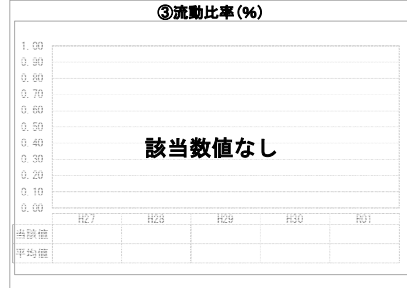
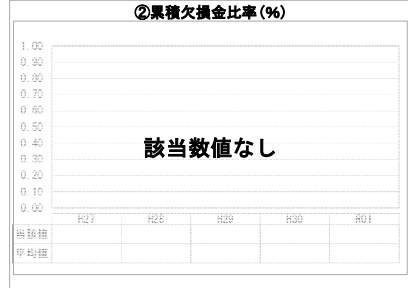
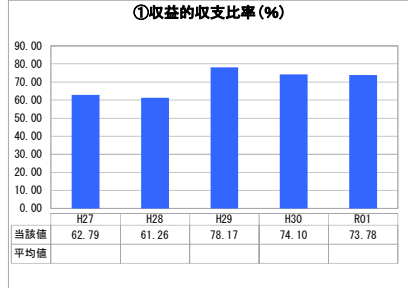
香川県 まんのう町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	14.31	106.39	2,497

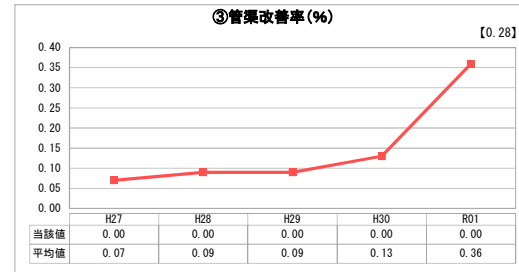
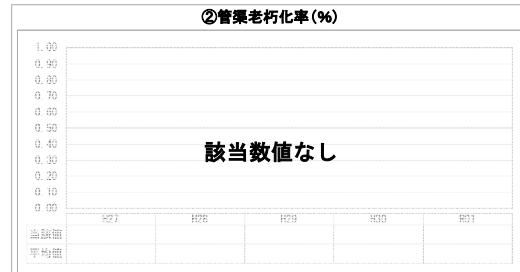
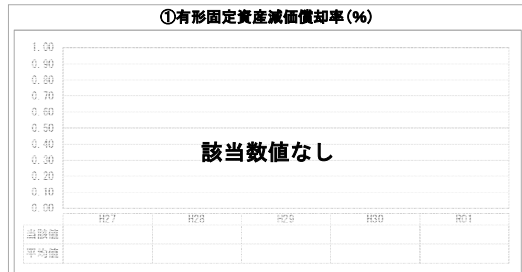
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,467	194.45	94.97
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,634	5.40	487.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を下回っており、前年度よりも収益が悪化している。そのため、繰入金があれば厳しい経営状況である。早急な経営改善に向けた取り組みが必要であると考えている。しかしながら下水道普及促進を図ることを目的として現段階では低い料金設定で啓発促進を行っている。また、他の汚水処理業務の料金も処理費用より低い料金設定をしていることもあり、下水道使用料だけの見直しは行えない。そのため収入の大幅な増加は望めないため、維持管理費の削減を重点的に取り組んでいく必要がある。また、企業債残高対事業規模比率については22年度がピークとなっており、類似団体の平均値を上回っている状況であったが整備を休止していった減少傾向であり平成27年度からは平均値を下回っている。今後は整備を実施する予定はないため企業債残高対事業規模比率は緩やかに減少が続いていくことが想定される。経費回収率が上昇しているが、これは使用料の徴収を強化したことによる。また、水洗化率が増加傾向であったが、30年度以降は減少している。これは水洗化率の計算方法の変更（水洗化人口算定方法を過去の届け出の積み上げ方式から住基からの直接集計へ変更）が要因である。汚水処理原価については減少傾向となっている。水洗化率向上のため、面整備を推進していくことも考えられるが、一方で費用対効果の面から30年度に全体計画を見直し全体計画区域を縮小した。今後も全体計画区域は拡大しない予定である。

2. 老朽化の状況について

平成2年より都市計画決定し事業を着手しているがリブ管や可とう継手を使用しており全体の平均管年齢は概ね若く耐用年数を経過しておらず老朽化は現状では問題となっていない。しかしながら早期に長寿命化に向けて取り組みを実施し計画的な維持管理等の運営を行う必要がある。

全体総括

本町においては、平成5年より供用開始しており20年以上が経過している。現状では面整備もほぼ概成になりつつある。一部では供用開始から現在に至るまで変化がなく田畑が多く残存し家屋が少なく散在している地域があったことから、30年度に全体計画を見直し区域を縮小した。今後は平成29年に策定したまんのう町下水道事業経営戦略(平成28年度～令和7年度)に基づき、農業集落排水の処理場の改築更新費及び維持管理費の削減のため更新時期までに公共下水道への接続することを検討しており、統合時期に併せて他の汚水処理料金と公平な負担となるよう適正な料金改定を考えている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。